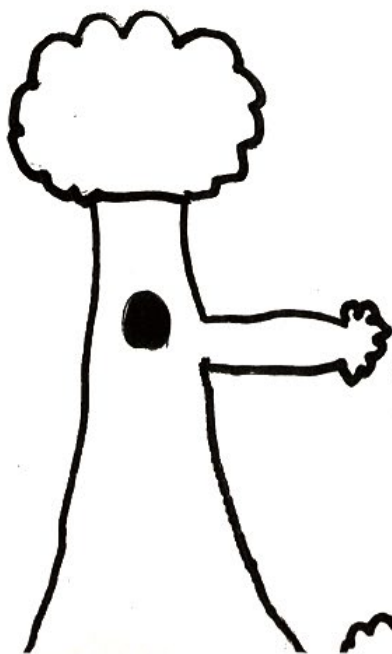
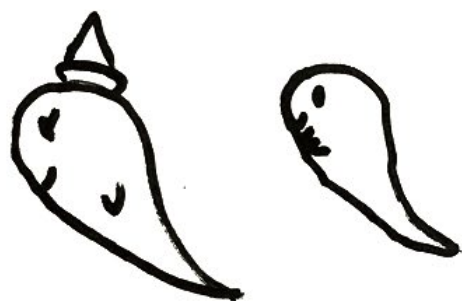




# とよ・たち美肌通信

10月号 vol. 147



# October



今月号のとろたち 美肌通信の表紙は、  
10月といえば、ハロウィンでしょ！

かめいらしいおばけが 楽しそうに  
夜の空をとんでいます。どどこに行くのかな？  
おうちからは 2匹のネコちゃんが「ホール あそび」！  
ピョロや糸絵を描く事が 趣味で、

いらしが 大好き！！

図エの授業で 工作や おり紙を  
する事が 得意な女の子が

描いてくださいました。😊

ありがとうが いま

院長はじめ

スタッフ一同バリエーション感謝

いたします。



今月(10月号)は 前回(9月号)の続きです。

憂いを辞書で調べると、“予想される悪い事態に対する心配事を指す”とある。憂いは人が長い人生を生きていく上で幾度となく経験するものである。

白隠<sup>ニ</sup>禪師の記した禪林句集の中に『君看よや 双眼の色。語らざれば 憂いなきに似たり』という言葉があります。訳すと、私の二つの目を見て下さい。憂うことなど何一つない様に見えるであろう...となる。

「焼き場に立つ少年」の瞳は遠く一点を見つめている。その瞳には戦争が彼の人生に影を落としている事は言うまでもない。語り尽くせない程彼の憂いは深く その断腸の思いは誰にも語ることはない。もしこの少年の瞳を見て同じく深く憂いを抱ける者がいたとしたら、同様な体験をした者だけのはず。その目を見ただけで会話を交さずとも心は同じであろう。この少年はき、と自分の眸子(瞳)を現代の我々に見て欲しいと訴えている様に思えてならない。

相田みつを氏の「憂い」という詩があります。  
「焼き場に立つ少年」の瞳はこの詩の通りに思えます。

『憂い』

むかしの人の詩にありました  
君看よ双眼のいろ  
語らざれば憂い無きに似たり

憂いがないのではありません  
悲しみがないのでもありません  
語らないだけなんです

語れないほど ぶかい憂いだからです  
語れないほど 重い悲しみだからです

人にいくら説明したって  
全くわからしてもらえないから  
語ることをやめて  
じっとこらえているんです

文字にもじとはに  
到底 表せない  
ぶかい 憂いを  
おもい かなしみを  
こころの底 ぶかく  
ずっしり しずめて

じっと黙っているから  
まなこが澄んでくるのです

澄んだ目の底にある  
ぶかい憂いのゆがみ人間に在り  
重いかなしみの見える眼を待た

君看よ双眼のいろ  
語らざれば憂い無きに似たり  
語らざれば憂い  
無きに似たり

みつを